

# 音楽のよろこび

2024年 6月24日 No.57  
発行文責 担当事務局  
田中正恭 田村乃里子

皆様、お久しぶりです。4月22日「バストロンボーン&チューバ」の回、小西元司さん、ピーターリンクさん、そしてピアノの城綾乃さんによるソロからトリオまで楽しく分かりやすいお話、オーケストラの役割、管楽器で可能な音のひびき、純正律、ピアノの平均律など、ちょっとむづかしいお話も…。

アンコールは「無言歌」でしたね。二つの低音楽器の魅力を十分楽しませていただきました。



尚、手違いでピアノの城綾乃さんの経歴を皆様に紙面でご紹介できなかった事、ご本人と受講の皆様にお詫びいたします。

そして、本日は木管楽器の低音を受けもつ、ファゴット（英語でバスーン）村中宏さんと、ピアノの矢野百華さんの登場です。オーボエと似ているのは、※ダブルリードの楽器という事で、やはり木管の中低音楽器です。様々な曲で活躍。皆さんは「ああ、あそこで使われているよね～」という事が必ず…さあ楽しみましょう。



### ※ダブルリード楽器とは……

音を出すために2枚の薄いリードを使用する楽器。このリードは楽器のマウスピースに取り付けられ、奏者が息を吹き込むことで振動し、音を生み出します。小さくて消耗品ですが、楽器にとってかなり重要な役割を担っています。代表的な楽器は、オーボエ・ファゴット。

第5回 佐竹裕介先生の音楽講座

～知っているようで知らない音楽の第一～

大作曲家深堀シリーズ Vol.1

**J.S.バッハ**

—なぜ「音楽の父」なのか—

2024年 5月20日 [月]

開場 14:00 (開演 13:30)

会場 京都府北文化会館 演習広聴堂 (〒604-8502 京都市北区北山町1-1)

自由 佐竹裕介 講師・トロンボーン

田村 安祐美 アルトホルン

藤吉 正 サクソフォーン

参加費 3,000円 (会場内・定価5,000円)

申込 datakeisei2024@gmail.com

申込・問い合わせ 075-443-1264

075-443-1264 (受付時間: 10:00~17:00)

075-443-1264 (受付時間: 10:00~17:00)

大作曲家深堀シリーズ Vol.1

**J.S.バッハ**

—なぜ「音楽の父」なのか—

佐竹 裕介 (トロンボーン)

田村 安祐美 (アルトホルン)

藤吉 正 (サクソフォーン)

～これまでの活躍の様子～

佐竹裕介企画委員会

佐竹 裕介

田村 安祐美

藤吉 正

会場のご案内

次期予告

大作曲家深堀シリーズ

**ハイドン**

—無人空想に漂わせる作曲家 No.1—

2024年 11月 開催予定

京都府北文化会館 演習広聴堂

皆様のご案内した、5月20日(月)の「佐多裕介先生の音楽講座」第一話は、大作曲家深堀シリーズVO1.1、J.S.バッハ。—なぜ「音楽の父」なのか—は、会場いっぱい、本講座受講生の皆様もたくさん参加されておられ、只々「よかった!!」の声でした。

終了後、佐竹さん、神吉さん（コントラバス）、田村さん（ヴァイオリン）の皆様から、「ありがとう..。」と、私からは「こちらこそ」と申し述べ第一回は終了となりました。次回は、「ハイドン」です。

## ～アンケートから～

いつもアンケートにご協力  
ありがとうございます。  
アンケートは一部抜粋したのもの  
もあります。ご了承ください。

バストロンボーンとピアノの演奏のバラードは、ゆったりとしておだやかな演奏で、とにかくはじめての体験で素敵でした。バストロンボーンもチューバも体力のいる楽器ですね。吹くことも指押さえにもかなりの体力がいるのですね。同じ指使いでも管の長さが変わると音色がこんなにも変化するのかと興味深かったです。

低音がお腹の底にピンピン響いてくる素晴らしい演奏でした。そしてピアノとのアンサンブルがステキでした。今、シャンソンでリベルタンゴを練習していますが、よい刺激になりました。参加できてとても良かったです。（大八木敬子さま）

バストロンボーンとチューバの為に作曲された曲を聴かせていただいて大変感激しています。オーケストラでは縁の下の力持ち的存在であるバストロンボーン&チューバが、主役となった演奏を聴けることなんてめったにないので、本当に良かったです。リベルタンゴは最高でした。

バストロンボーンの長さや重量感に驚きました。小西さんの身長に達するのではと傍から鑑賞していたと思いました。体力・肺活量ともに感服いたしました。ピアノの譜めくりでも活躍されていましたね。D. フェッターはスペインのイメージをどう描いたのでしょうか。トロンボーンだけの演奏では闘牛の牛のふるさとの牧場の情景、沈む夕陽、高音域ではスタジウムの様子を思い浮かべました。チューバとピアノの共鳴しあう不思議な感覚。テンポが「ダ・ジ」ョと「アルゲ」で変わるバリエーションは新鮮でした。バラードは懐かしいと思いました。日本の音階が取り入れられていたからなのですね。ピアソラの三曲はどれも心打たれるものでした。チューバ・トロンボーンのむせび泣くような孤独の響き、低く抑えたピアノのメロディ、素晴らしかったです。冒頭のミケランジェロは追いかける切迫感、ミステリアスな雰囲気を感じました。ピアノもよかったです。（外村律子さま）

バストロンボーン&チューバの演奏を聴くことはあまりないので、楽しく聴くことができました。あまり一般的でない曲目を選ばれたとのこと、音楽の世界の広さを感じる事ができました。一曲目のミケランジェロの孤独は、迫力あるリズム感とピアノとのアンサンブルがよくマッチしていて印象に残る曲でした。オーケストラの調律の厳しさなど、普通では指揮者以外各パートで音合わせなどしてアンサンブルをすることなど、知らないあうんの呼吸があると知り、良かった。城綾乃さんのピアノテクニクに感動。

バストロンボーンもチューバも優しくて柔らかく丸く太い音に癒されました。うっとり寝てしまうほどいい音でした。楽器の構造や歴史などもお聞きしたかったです。ありがとうございました。（布川博さま）

コンサートではバイオリンとかチェロはわかりませんが、バストロンボーン&チューバの音色を初めて聴き感動でした。最後の曲素晴らしかったです。

最後のリベルタンゴを聴いてから感想文をと思っていたら、さらに一曲演奏下さって感動が深まりました。バストロンボーン、チューバ、ピアノという今まで聴いた経験のない新鮮なトリオ！この低音楽器がオーケストラの深い音を支えているのだと分かり、オーケストラへの興味が深まりました。

音楽大好き人間！今回初めて参加させていただきました。クラシックは幅広く、奥行きも深いものですね。今日の曲は勿論「作曲家」も初めて聴くものばかりでした。来月からのプログラムを聴いてみないと分かりませんが、知ってる曲も演奏していただければと思います。これから楽しみです。

バストロンボーンやチューバは、オーケストラの土台のような存在でなくてはならないと思っていましたが、独奏を聴く機会はありませんでした。今日のお話で音をブレンドしているとの言葉が印象に残りました。チューバの長い独奏を聴き、またリベルタンゴは素晴らしかったです。

今年度最初の講座である今回のバストロンボーンもチューバも、今までに近くで楽しむことのなかった楽器です。オーケストラの中では目にするのですが……。一曲目から両楽器の響きに包み込まれ、とても素敵な気持ちでのスタートとなりました。伴奏のピアノの音がまたすばらしく、演奏が盛り上がっていましたね。初回から新しい音の世界を感じる事ができました。「いい音と正しい音程」という言葉が心に残りました。（J.Aさま）

すてきな演奏ありがとうございました。バストロンボーンもチューバもソロで聴くことがあまりないので、2つの楽器の美しい音色をたっぷり聴けて良かったです。バストロンボーンは低音のやさしい音で心が和みました。お二人の仲のよさもよくわかりました。ピアノも素晴らしかったです。

とても近くの位置で演奏を聴くことができ、トロンボーンの息づかい等も聞けて良かったです。楽器も近くで見ることができたので、身近に感じました。

間近で生の演奏を聴けて感激しています。二年目です。お話を聞いて楽器の紹介ありで楽しませていただき、ありがとうございました。朝にイスラエルとイランのニュースを聞き悲しい気持ちになっています。平和であることに幸せを感じています。すばらしい音楽をありがとうございます。

バストロンボーンとチューバの楽器の役割がよく分かりました。何よりこんなに近くでその響きを味わえるのはとても有難いです。ピアノとシューマンの曲などもとても美しいメロディで聴き入りました。ピアノは平均律なのでGの音などは16%も他と違っているとのこと、実際の演奏では一体どうされているのかなと気になりました。（東村陽子さま）

やわらかい音から力強い音迄、低音から高い音迄、早いパッセージを吹きこなすのは、大変なことだと思います。きらきらしたピアノ伴奏がとっても素敵でした。

バストロンボーンとチューバのみの音を聞くのは初めてです。よい経験になりました。

あんな大きなチューバから繊細な音が作られるのに驚きました。トロンボーンとチューバのブレンドがとても心地よかったです。

本講座も3年目になる昭和（戦前）生まれの私には、小学生時代の歌のみで、中学はレコード鑑賞、大人になってラテン音楽楽しんだ時代もありましたが、毎日が日曜の生活になり、京都高齢者大学の「大人の音楽教室」で楽器の造りやオーケストラでの様々な楽器のソロ演奏を間近で聴く楽しみに恵まれ、幸福感に包まれる2時間です。今日はバストロンボーンとチューバのお腹に響き渡る低音にしびれました。ピアノの乾いた音にも魅了されました。この教室で音楽に親しめたことから、月に一度はオーケストラ演奏を聴きに行けるようになりました。感謝。  
楽器のオーケストラの役割も説明を受け、音楽を聴く楽しみが広がりました。

お二人の仲の良さが伝わってくる楽しいトークと、素晴らしい演奏をありがとうございました。バストロンボーンとチューバはオーケストラを下から支え、他の楽器の音をブレンドさせる役割を担っている事を教えていただき、次回コンサート鑑賞の時は2つの楽器に注目して聴いてみようと思います。

チューバの演奏は初めてでした。大きな楽器なのにやさしい音で体の奥まで響いて快い音楽を楽しめました。トロンボーンは基本的には管の操作だけに見えるのに細かな音の変化があり、いくら熟練されているとはいえどうして音ははずさないのか不思議でした。ピアノの伴奏があると、音に奥行きが出てとても楽しめました。

オーケストラでしか見たり聴いたりできないトロンボーンとチューバを一番前の席で楽しむことが出来たのは初体験でした。お二人のお話も人間味あふれステキです。京響に行ったらお二人を探すと思います。

今日はありがとうございました。バストロンボーンもチューバも単独で聴くことがなかったので、とても楽しませていただきました。これからオーケストラの中で注目していきたいと思います。

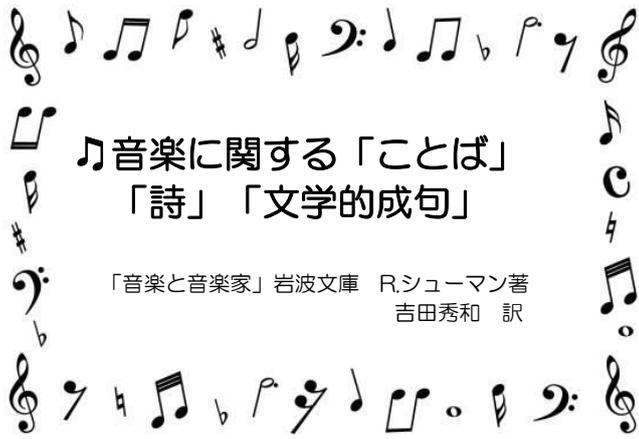
ベース音を担当されている楽器をソロで聴くのは初めてで、体で楽器の振動を感じながら楽しませていただきました。ベース楽器にフォーカスした企画ありがとうございました。オーケストラでの担当楽器のお話など興味深く聞かせていただきました。アンコール前の曲もの悲しさの中に強さがあってよい曲ですね。本日はありがとうございました。（荒井亨さま）

コンサートでもいつも後方で目立たない、めずらしい楽器2種類も単独演奏で耳にすることが出来てとても興味深かったです。お話だけでなく、生演奏にも沢山触れる事が出来て楽しい時間を過ごせました。

初めての受講でしたが、来て良かったと思える授業でした。日頃目にすることがない楽器でしたが、オーケストラの深みや重厚さにはなくてはならない楽器という事を実感しました。ピアノの演奏も素晴らしかったです。

主旋律を奏でる楽器と異なり、華やかさはないが、落ち着いた低音の曲調はすばらしい。全く知らない作曲家の名前もあるが、新鮮でした。オーケストラの基礎をこの楽器により素晴らしいものになると理解できた。アンコール曲、ワンダフル！！

低音が体の芯まで響き心地よかったです。



## 音楽に関する「ことば」 「詩」「文学的成句」

「音楽と音楽家」岩波文庫 R.シューマン著  
吉田秀和 訳

《各号スペースがあれば、田中の独断でいいな~と思った「ことば」や「詩」・文学的成句などを書いていきます。》

メンデルスゾーンの交響曲作品56、スコットランド短調の第4楽章を評して、「……多くの人はこちらにフィナーレらしいものを予期するだろうが……この曲では第一楽章のはじめを偲ばせるようになっている。これはただ詩的だという他ない。いわば美しい朝にふさわしい黄昏である——。」

この本のあとがきの中で、訳者の吉田秀和は「シューマンのロマンシズムの最も目立った性格の一つは、詩的・幻想的な香りの高い音楽を書いたことであり、それはある意味で、音楽と文学との結婚であった…」と述べています。

この本の中には以上の他、たくさんの興味深い燐鉞シューマンの論考があり、今読んででも充分説得的で楽しめます。



次回は7月22日(月)

会場：鴨沂会館

13:00開場 13:30~15:30

「サマーコンサート」

ヴィオラ・チェロ・ピアノの予定でしたが、もう一人メンバーを増やし、豪華にしたいだけるようになりました。ご期待ください。

